

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 5章3-4節 (新約聖書6頁)

- 3 「心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。
- 4 悲しむ人々は、幸いである、
その人たちは慰められる。

幸い

幸いとは何でしょうか。どんな時、どんなことで人は幸せを感じるのでしょうか。時代、地域、歴史、文化によって幸せは千差万別です。もちろん一人一人違いますし、人生のその時、その時でも変わります。

例えば赤ちゃんはお母さんのぬくもりだけで幸せを感じるでしょう。また年頃になれば、ホクホクの焼き芋をほおぼただけで幸せを感じる人もいるでしょう。また好きな人と一緒にいるだけで、時間も忘れるほど幸せを感じる人もいるでしょう。そして健康でいるだけで幸せを感じている人もいます。

でも、人生にはこの世の何も頼りにも、慰めにもならない時もあります。じっとその時の悲しみ、絶望に耐える時、受け止めるしかない時があります。そして側にいても何も言えない、何もできない、側にいることさえ許されない時もあります。

イエスは友のない人の友となり、慰める人のいない人を慰めました。あなたは一人ではない、あなたの友となるために、あなたと共に泣き、あなたと共に喜ぶために、この世に来たのだと言っているのです。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは、私たち英和を愛し、慰め、祝福して下さいます。それが私たちの幸いです。どうか、本日から学期末試験に臨む生徒たちを祝福し、この学びが生徒たちの未来へと続きますようにお導き下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、あなたのみ前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン